

<白金標準、景気抑制の動きの 5100 円割れは逆張りのタイミング・・・>



(出所：オアシス)

パウエル FRB 議長の半期に一度の議会証言や消費者物価指数（CPI）に続き、ミシガン大消費者信頼感指数など金利高止まりを受けた景気抑制の動きが示されている。また国際エネルギー機関（IEA）は月報を発表し、第 2 四半期（4 月～6 月）の世界の石油消費はわずかに増加し、過去 1 年余りで最も弱い伸びに留まるなど、中国で新型コロナウイルスのパンデミック明けの回復が失速したことが背景にあると明らかにするなど、中国の景気低迷の動きが目先白金価格の高値を抑える状況に思える。また国内商品価格は円建て価格であり、為替市場の円高の動きで下値模索の動きに移行し易く、週末には一時 5100 円を下回ると 5066 円まで下値を模索している。ただ中国上海で 4 日間行われた上海プラチナウィークでは、中国・広州先物取引所で今年中に中国初のプラチナとパラジウムの先物取引を開始し、国内価格ヘッジの仕組みを提供する予定だと発表するなど、中国国内における現物需要の起爆剤になる可能性を秘めている。そのため目先は 5100 円以下で下げ渋る動きに思え、外的な要因で 5050 円以下があれば、強気のエントリーが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下落し、**シグナル** も上昇が止まり、RCI では**短期**が下げながら、**長期**も切り下げるなどオシレーターは弱気に変化していると思え、下値模索の値動きに備える時間帯に思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,550,000円(2024年7月16日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復76,560円(2024年7月16日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>